

審議会等の会議結果報告書

課所名

企画政策課

会議名 令和8年度諏訪市総合教育会議

開催日時 令和8年6月12日(金) 午前10時00分 ~ 正午

開催場所 諏訪市役所 302会議室

出席者

(出席者) 金子ゆかり市長、後藤慎二副市長、三輪晋一教育長、岩波健一教育長
職務代理者、玉本広人教育委員、今井みどり教育委員、松木祐基子教育委員、
前田孝之企画部長、小林純子教育次長、柳平直章企画政策課長、森崇教育総務課長、
小泉良文生涯学習課長、酒井泰史スポーツ課長、濱嵩志企画政策係長、関沢佳久文化センター館長、
福田京介文化センター主査(計16名)

(傍聴者) 3名

資料

紙ベースなし

協議議題(内容)及び会議結果(要旨)

1. 開会

(進行: 前田企画部長)

2. あいさつ

(金子市長)

(三輪教育長)

3. 報告

(1) 諏訪市立小中学校の教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画策定について
事務局から計画策定について報告を行った。

【質問意見等なし】

4. 議題

(1) リニューアル後の諏訪市文化センターのビジョンと運営方針の策定に向けて

事務局から文化センター運営検討委員会における検討経過、基本理念、運営方針(案)、施設活用イメージ等について説明を行った。

【教育委員からの主な意見】

文化センターの特色と活用について

- ・ホールの花道や優れた音響を生かし、歌舞伎や古典芸能など文化センターの特色を生かした事業展開に期待する。
- ・ホワイエや芝生広場などホール以外の空間も活用し、多様な文化芸術に触れる機会を創出することが重要。
- ・国登録有形文化財としての価値を大切にしながら、市民に親しまれる施設として活用されることを期待

する。

市民参加と人材育成について

- ・市民や学生、ボランティア団体などが企画段階から参画できる仕組みづくりが必要。
- ・専門スタッフやプロデューサー人材の配置・育成が重要であり、市民の文化活動を支える体制整備を進めるべき。
- ・市民、企業、行政が連携しながら文化センターを育てていく運営が望ましい。

若者や子どもが集う場づくりについて

- ・若者や学生が気軽に立ち寄り、活動や交流ができる居場所づくりを期待する。
- ・高校生委員からの提案にも見られるように、市民と一緒に施設をつくり上げていく仕掛けや体験型の活動が重要。
- ・芸術鑑賞や文化体験を通じて、子どもたちが質の高い文化芸術に触れる機会を充実させたい。

駅周辺のまちづくりとの連携について

- ・文化センターを駅西口周辺再開発エリアの文化拠点として位置付け、回遊性やにぎわい創出につなげるべき。
- ・企業や経済界との連携により、文化芸術活動を支援する仕組みづくりが必要。
- ・芝生広場やオープンスペースを活用し、多世代が集い交流できる場として発展させることを期待する。

運営体制及び今後の展開について

- ・貸館中心の運営から自主事業を含めた運営へ転換し、施設の魅力向上を図る必要がある。
- ・リニューアル後は人と人をつなぐ仕組みや運営ルールの整備、安全安心な利用環境の確保が重要。
- ・運営検討委員会や市民から引き続き意見を聴取しながら、ビジョン及び運営方針の具体化を進めてほしい。

【教育長意見】

運営方針の具体化に向けて、施設の特徴を生かした自主事業の充実や、人材育成の仕組みづくりが重要。

また、人々が集い交流するための具体的な仕掛けや運営ルールについても今後さらに検討を深める必要がある。

【副市長意見】

文化センターの保存・活用に関する議論が長年にわたり積み重ねられてきたことに触れたうえで、文化財としての価値を市民に広く伝えていくことが重要。

また、フリースペースなど新たな機能を活用し、人と人がつながる仕組みづくりが今後の重要なテーマである。

【市長総括】

文化センターは駅周辺再編や中心市街地活性化における重要な拠点であり、文化的価値と地域のにぎわい創出の両面を担う施設であるとの総括があった。

また、文化センターは諏訪市の歴史や産業の歩みを示す貴重な遺産でもあり、その価値を次世代へ継承するとともに、多くの市民が日常的に利用し、親しめる施設として運営していくことが重要であるとの

考えが示された

4. 閉会
(前田企画部長)

以 上